

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800397		
法人名	社会福祉法人 吾郷会		
事業所名	グループホーム マホロバの里		
所在地	島根県邑智郡美郷町長藤745-5 (電話) 0855-82-2506		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月19日

【情報提供票より】(21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2				
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2				
年齢	平均	91 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦クリニック、波多野診療所、三次中央病院、大田市立病院、福間歯科医
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間地の福祉法人として一貫した理念に基づき地域貢献を推進している。今年度も2回目の研究発表大会を開催し、地域において必要とされるサービスは何かを共に考える場とし、人材育成や介護サービスの向上に努めている。ホームでは自主性を尊重した生活支援として「利用者のできることを探していこう」「声掛けの工夫で可能性を引き出そう」とケア目標を決め取り組み、利用者は文化祭、運動会、祭りの参加などで、喜びのある生活をおくっている。管理者、職員は地域で暮らし続けることや、地域のささえあいを追求して日々奮闘している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「家族の意見の引き出し」は家族アンケートを実施し改善されている。「楽しい食事の支援」は食事を一緒に作る機会を増やす努力をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義は職員に周知され重要視されている。結果は職員や運営推進会議にも報告されている。今回の自己評価は職員の意見を聞きながら介護主任と計画作成担当者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	毎回活動報告や利用者の暮らしかた、職員の異動、事業報告など多岐に渡る説明や報告がされている。参加者からは短期入所のことや安全に関すること、災害のことなど積極的に意見や質問が出されている。地域の防犯の問題もあり青年団も参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月諸行事の参加案内と共に、担当者が書いた利用者の暮らしぶりや、広報誌『はばたき』を年4回送付している。家族からは意見や要望はあまり出ないが、利用者のできる動作が増えて驚かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運動会では馴染みの住民と交流したり、自分の書いた書道などを文化祭に出展したり、敬老会や保育園の交流など地域に出て行く活動が多い。職員は缶拾いなど行い、地域交流を進めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の一貫した顧客満足という経営理念に基づき、事業所独自の理念を掲げている。理念は利用者及び家族、職員、関わるすべての人への地域貢献という視点を持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念に沿った指標を掲げ、毎年見直し達成できれば次の指標に取り組むようにしている。	○	「認知症状況の改善」が掲げられているが、利用者、家族が分かりやすい表現が望ましい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の運動会や文化祭には参加のお誘いがあり書道などの展示をしている。敬老会では踊りを披露したり祭りには地元楽打ちがくるなど積極的に地域交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は職員全員に周知されている。家族からの評価も受けるため、家族へのアンケートハガキを実施した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回計画的に開催されている。短期入所利用や事故・災害などについて、参加者より積極的に質問や意見が出されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が民生委員を引き受けていたり、介護保険運営協議会参加や認定審査会参加など積極的に市町村と連携をとっている。脳の健康教室の案内などがある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の気になる事は、利用者の体調や事故のないことであり、毎月状況を知らせている。金銭残高や行事の参加案内・広報誌『はばたき』を送り、ホームでの取り組みを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム外に苦情相談員を置いたり、アンケートハガキを送ったが苦情はなく、家族からは、利用者のできることが増えたと驚きと感動の声が聞かれた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐ配慮として、言葉遣いや本人の意見を尊重する対応を指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度が導入され職能基準書に基づいた上司との面接では職員の良いところも評価され、働く意欲となっている。また、第2回研究発表大会を開催し7つの研究発表など職員の成果発表や研修の場となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に他グループホームがなく交流ができていく環境にある。管理者が他県の同業者と交流したり、研修の内容をホームで活かすなど質の向上に努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば、利用前に本人や家族に見学してもらおう、できるだけ家族から情報をもらうことで、雰囲気馴染めるよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設長が定期的に話される法話の本を、覚えている利用者もあり、そのときの目の輝きが違う。手を握ってあげることを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れたり、会話や話題の中で思いを把握している。馴染みの美容院へ行きたいという思いを実現し、美容院で今までどおり正座してお茶を点てられ、生き生きした姿があった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にも参加を促し、希望や意向を把握し、担当職員・出勤職員で話し合いプランに反映させている。家で畑仕事をされていた方は、ホームでは草取りなど生活の姿が見える継続したプランが立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとに見直しを行い、状況に変化があった場合には随時プランの検討をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期入所の希望の方があり受け入れた。ホームの利用者と趣味の折り紙をして過ごし、職員にとっても良い経験になった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に受診し、往診も受けている。各医師とは連携はスムーズである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況や家族の要望に沿って、できることは対応する方針である。ホームでは困難な場合は特別養護老人ホームの申請をするなど、適切に手配している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者のプライドを大切にし、言葉づかい、身だしなみに配慮し、声かけには工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後だからとみんな昼寝をするのではなく、2～3人でおしゃべりしたり、一人ひとりのペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設で行い、利用者は職員と盛り付けや片付けを行っている。おやつ作りや畑で育てた野菜と一緒に調理することもある。	○	職員と利用者が一緒に同じ食卓を囲み、同じ食事を食べることで、より食事が楽しくなるので、職員も一緒に食事をされる事が望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴する体制は取られている。入浴しないときは、シャワーやホットタオルでの清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事（祭り、運動会、文化祭、もちつきなど）に参加したり、庭の草抜きや野菜の料理、書道など趣味活動と張り合いのある生活を支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「人に出会うこと、外出することが心のリハビリにつながる」と、職員が買い物に行くときには一緒に車で気軽に外出支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーもなく、日中は鍵はかけていない。自室の裏の草取りなど自由に出来るが、見守り対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練をはじめ、地震災害対策方法やマニュアルなど検討している。避難場所は職員はもとより、利用者家族、地域の方も周知している。備蓄品も確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時やお茶の時、又夜間の声かけで水分補給に努めている。水分がとりにくい方の場合には、好みの物を工夫したり、主治医に相談して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり、花壇の世話や日向ぼっこなど、利用者の憩いの場となっている。廊下や居間にソファが置かれテレビを見る等くつろげる場所がある。	○	廊下に貼ってある手洗いやうがいのポスターを、家庭的な雰囲気になるよう場所の工夫してほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレと洗面所があり、利用者が安心して使用できる。利用者の馴染みの家具が置かれ、笑顔の写真が飾られ、落ち着いた雰囲気である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。